

令和8年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 武蔵村山市立第八小学校

校長名 井口 洋

教育目標

人権尊重の基盤に立ち、創意に満ちた教育活動の推進に総力をあげ、人間性豊かで思いやりがあり、21世紀を逞しく生き抜く国際感覚豊かな子供を育てる。

- ◎考える子 きたえよう頭を
 - 思いやりのある子 みがこう心を
 - やりとげると つよくしよう心と体を
 - 礼を重んずる子 あらわそう思いを
- 行動目標 わけをそえて話すことができる子

1 目指す特色ある学校像

自分大好き 友達大好き 学校大好き 八小の子 (目指す児童像)

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校 (目指す学校像)

苦楽を共にし、子供のために力を尽くす チーム八小 (目指す教師像)

- (1) 地域を愛し、地域に開かれ、地域と共に歩む学校 (コミュニティ・スクール)
 - (2) 午前5時間制により、元気、根気、本気、勇気(4つの気)を育む活力のある学校
 - (3) 礼儀やマナーを身に付け、明るい挨拶やそっと会釈のできる温かみのある学校
 - (4) 「楽しい授業」「わかる・できる授業」「考える授業」を通し、学ぶ意欲、確かな学力を育てる教育力のある学校
 - (5) 子供が学校を誇りに思い、保護者・地域に愛され、信頼される学校
- キーワード「ABC」(A あたりまえのことを B ばかにしないで C ちゃんとする)

2 経営の具体策

- (1) 全国学力学習状況調査(算数科)における平均正答率を、全国平均に引き上げる。
- (2) 知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上のために
 - ① 「分かった!できた!使えた!」を実感できる授業、学ぶ意欲を育む授業を実施する。
 - ② 習熟タイムの充実を図る。
 - ・各教科の「基礎の定着」を確かめる問題
 - ・学んだことを活用する「適応問題」
 - ・意欲の高まりに応じた「発展問題」
 - ③ 自ら学ぶ場としての放課後「基礎学習教室 (八小まなびば)」を実施する。
- (3) 教員の授業力向上のために
 - 校内研究では研究授業を年3回、「一人一研究」の研究授業を一人2回ずつ実施する。
- (4) GIGA スクール構想を推進し、PC 端末等を授業、家庭学習、保護者連携に活用する。
 - ① 早寝早起き・朝ご飯・歯磨き・家庭学習の励行とスクリーンタイムの制限等、家庭啓発に努める。
 - ② 1人1台端末を「日々の授業」、「家庭学習」、「保護者連携」等に効果的に活用する。

まちづくり学習の推進に向けた方策

- ・全学年で「まちづくり学習」を年間指導計画に位置付け、地域について自ら調べ、地域社会と関わりを通し、よりよい地域づくりに参画しようとする態度を育む。
- ・身近な人々や社会との関わりに目を向け、地域への愛着や社会参画の素地を、教科等横断的に育む。
- ・発達段階に応じて、学習の対象を身近な生活圏から武蔵村山市全体へと広げ、自ら課題を見出し、他者と協働して新たな価値や解決策を創造する探究的な学習を推進する。

小中一貫教育推進に向けた方策

○人権教育を柱とした五中校区の小中一貫教育を推進する

- 『確かな学力と豊かな心を育み、自信と誇りをもって21世紀を逞しく生き抜く子供の育成』
- ・人権教育の視点を加えた「五中校区スタンダード」を基に、2学期に行う授業研究の準備等を8月の合同研究会において行い、9月以降の研究、実践に生かしていく。
 - ・年間3回の五中校区学校運営協議会を通して、健全育成を重点として、学校・地域とが一体となった一貫教育の推進を図っていく。